

サバティカル期間における研究経過・成果報告書

国立大学法人茨城大学長 殿	平成 29年 3月 6日
所属・職名 <u>人文学部・教授</u> 氏 名 <u> 愈 和</u>	下記のとおり、サバティカル期間が満了しましたので、研究経過・成果等を提出いたします。
サバティカル制度を利用した期間	2016年 5月 1日 ～ 2017年 2月 28日

①研究経過について (利用期間を月単位などに区分して、具体的な研究経過を記入して下さい。)	5～6月 資料収集、統計整理 韓国銀行、政府機関、等へのインタビュー 7～8月 資料整理、調査研究 総務省、厚生労働省、横浜市へのインタビュー、など 9～12月 各種研究シンポジウム等での報告、研究者との意見交換 研究報告書の作成、政府機関への補足インタビュー 1～2月 資料整理、論文作成  *研究期間中、韓国政府機関(行政自治部、保健福祉部、国会予算政策処等)、研究機関(韓国地方行政研究院、京畿研究院、韓国銀行経済研究所、等)、地方自治体(ソウル特別市、京畿道、仁川市、等)、へのインタビュー、大学研究者(30余名)との意見交換を実施。
②研究成果について (目標の達成状況及び研究成果の公表予定について記入して下さい。)	1. 報告 (1) 100万都市華城市行政体系構築シンポジウム(10月20日) 「日本の大都市制度と都区財政調整制度」 (2) ソウル大学行政研究所研究会(11月2日) 「韓国地方財政の国際的地位」  2. ディスカッション・ペーパー (1) 韓・中・日共同シンポジウム『都市高齢者福祉政策』(ソウル大学高齢社会研究センター、10月5日) 「日本の高齢者福祉と地方財政」 (2) ソウル大学政策フォーラム 「社会保障制度と地方財政—日韓比較を中心に—」(11月14日) (3) 2016 JEJU International Conference: Smart Governance, Sustainability, and Public Policy around the World(12月15-17日) “Local Public Finance in Korea: International status”  3. 論文 (1) 「日本の社会保障制度と地方財政」京畿研究院『社会福祉政策改編に伴う地方の対応戦略』、2016年12月。所収 (2) 「日本の地方分権改革の推移と特徴」、京畿研究院『日本の長期発展戦略と対応』、2017年6月刊行、所収 (3) 「韓国と日本の分権改革の歴史的比較研究」(共著)、ソウル大学『行政論叢』、2017年第1号、4月刊行予定)